

# フロンティア

第四選挙区支部会報誌

FRONTIER



10号



この会報誌は、再生紙を使用しています。  
この印刷物は、自然環境に優しい大豆油インキを使用しております。

# 激動の「イラク情勢」「北朝鮮問題」 外交スペンシャリスト岡崎久彦氏と 真意を交わす! 〈平成14年12月4日〉

**安倍** 岡崎さんにまずお伺いしたいのは、もしイラクがなかなか国際社会の要求を満たさないという中で、アメリカが様々な判断をするときに、日本はどういう立場をとればいいのかということですか。

**岡崎** イラクの情勢を今お話しするには、あまりにも事態が動いておりまして、見通しを立てにくいんです。まずは十二月八日、このときにイラクは、自分たちは何もしていないということの説明する資料を出してくるはずですが、読むだけでも大変な資料が出てくるらしい。それは時間稼ぎだという説もあります。

基本的にはアメリカは納得しません。軍事生産に直接関与した人間がアメリカに亡命していますから、その人の証言で細菌兵器なら、炭疽病菌を既に三十万トンも蓄積して持っているんだという話もちゃんと持っています。ですから報告ができれば出るほど、査察が進めば進むほど、アメリカの持っている情報との違いが

どんどん明らかになってくる。ということは、戦争をするという大義名分が出来るということです。

ただ、イラクとの戦争の見通しは一種の多次元方程式ともいえます。例えばアメリカが戦争を始めて、一カ月間爆撃して、その後、週間攻撃して、全部きれいに片がつき、イラクの政権が転覆して、自由民主主義国家が出来て親米国家が出来ると。そうと決まっていれば、ほかの国が反対しようとか何だろうと構わずに決断出来ます。そしてその結果「やつぱりアメリカは偉い。アメリカにはかなわない」ということになります。ところが、その戦争の見通しが必ずしも明らかではない。つまり、爆撃一つとってもどこまで出来るかよくわかりません。なぜなら重要な軍事施設はすべて病院とか学校のそばの地下にありますので、爆撃するとみんなが怪我をするようになっていきます。

この前の湾岸戦争の時も、ここに

サダム・フセインがいるだろうと思われる場所には爆撃出来なかったといえます。どうしてかというところ、いろいろと思われる地下室の、その上に建っているビルが外国新聞記者用のビルなんです。そこに爆弾を落とすわけにはいきません。つまりすべてそういうふうには仕組んであるのです。それから次にいよいよ陸軍が入ったときに、今のところの見通しでは、イラクの国防軍の大部分は寝返りを打つと考えられます。しかしその見通しがもし誤ったら大規模な市街戦になるのは確実です。

市街戦になると、どうしてもアメリカ兵の損害、それからイラク側の非戦闘員の損害が大きくなると予想されます。そうすると世論がもたなくなる可能性もあります。

そうした状況の中で、アメリカでは十一月五日に中間選挙が行われ、上院・下院の両方で勝ちました。勝つてしまうとブッシュ共和党の政策を国民が支持したということにな

ります。それから五日後の安保理において安保理決議が行われました。

これでイラクに対する安保理決議はフランスもロシアも、アラブではシリアまで含めて全員一致で可決しました。これはイラクがいかに悪いことをしたか、これをどうにかするのが国連加盟国全部の安全保障の問題だとはつきり書いたんです。あという安保理決議が通つてしまうと、

激論!

日本の外交





## 略歴

- 1952年 東京大学法学部在学中に外交官試験合格、外務省入省  
 1955年 ケンブリッジ大学経済学部学士及び修士課程修了  
 1978年 防衛庁国際関係担当参事官  
 1981年 ジョージタウン大学戦略国際問題研究所客員フェロー  
 ランドコーポレーション客員フェロー、ハーバード大学客員研究員  
 1982年 外務省調査企画部長  
 1984年 外務省情報調査局長、在サウジアラビア大使  
 1988年 在タイ大使  
 1992年 外務省退官、(株)博報堂特別顧問

## 著書

- 『自分の国を愛するということ』(海竜社 1999年)  
 『陸奥宗光とその時代』(PHP研究所 1999年)他多数



アメリカは、例えば一週間で済む戦争が三週間になつても持ち堪えられる。こうして多次元方程式の二つの要素が固まってくるわけです。

となると今回の査察において、イラクの対応が不十分であればそこですぐアメリカが戦争をするのか、もう一度安保理に持つていつて、決議を取ってから戦争をするのか。これも、

アメリカが早く勝てるなら、二気にやればいいんですが、長くかかりそうなら安保理決議を通つておいたほうが国際世論もかわし易いし、国内世論の支持も得易くなります。いつまでたつても多次元方程式で、それを解きほぐしていかなければいけなくなります。

ただ、そこでもし安保理決議を通してくれれば、日本はその決議に沿つて法律をつくるのが出来ます。安保理決議なしでやれということになると、集団的自衛権があると解釈すれば、この前の決議でも出来ますが、それがないと、また新しい法律をつくらないと自衛隊は動けないということになります。

結局、今までやってるアフガニスタン支援の作戦を少し拡充・強化するという形で、その部分だけアメリカとイギリスはアフガニスタンから退くことで、それをイラクに回せるようになります。そうした間接的な支援からいっても、イージス艦派遣というのはものすごく大きいと思います。

これは余談ですけども、インド洋は暑いですね。今までの護衛艦ですと、海水の表面温度が三十二度以上になつたら冷房は海水で冷やしますから効かなくなります。日中は甲板の上は四十度、五十度です。自衛隊員はそこで何カ月も勤務するわけですから、地獄の様な勤務で

す。

冷戦時代に、アメリカの第七艦隊がインド洋をパトロールしていて、通るのは日本のタンカーばかりなのを見て「俺たちは一体、何のために働いているんだ」と言っていたのもわかりますね。イージス艦になると冷房ももっと効きますし、日本の原油輸入の安全確保の為に、この派遣には大きな意味があると思います。

もともと海上自衛隊なるものは、イージス艦を旗艦として、その下に情報も含めてすべてが組織されて、一つのグループを成して動いている艦隊なんです。これはまさに運用上の問題で、イージス艦を送ることで、むしろ正常な形に戻つたということだと思います。

私から安倍さんに伺いたいのですが、昨年の九・一一事件のあと、すぐに特措法(テロ対策特別措置法)をつくり、インド洋に艦艇を出したあの手際のよさは、あれはどういう経緯だったのか、お話し頂きたいと思っています。

## 安倍

昨年、特措法をつくつて、今でも自衛隊がインド洋において活動を行つております。今、海上では、アフガンでのオペレーションの約四〇%の燃料は自衛隊が給油をしています。自衛官なしにはオペレーション自体が成り立たないという大きな存在になっています。ただあのときは、みんながまざまざとワールド・ト

レード・センターが崩れていくのを見ていて、日本人も二十四人亡くなりました。これが非常に衝撃的でした。

今、イージス艦を出すかどうかということが論議されております。法律の建前では、基本計画、その他の活動計画も含めて国会の承認が必要で、これはシビリアンコントロールという意味において、国会も一枚噛ませるということです。ただ、そこで書かれているのは「護衛艦」と書いてあるわけで、どういう護衛艦を派遣するというのは作戦運用上の話ですから、二々国会に承認を求める必要はありません。私個人としては、性能の良いイージス艦を保有しているのですから、当然出すべきだろうと思つています。もし反対をするのであれば、イージス艦を購入するか否かという次元において議論を交わすべきであると思つております。

## 岡崎

次に北朝鮮の問題ですが、ごく簡単に私の感触を申し上げますと、現在日本は、世論を背景に非常にしつかりした外交をやつていていると思います。

その原因はやはり安倍さんの夷險二節した姿勢にあると思います。この姿勢によつて拉致被害者の家族が、今の政府・外務省は相手にしない、安倍さんと相談すると言ひ出しました。また、そこに来た安倍さんの部下二人が非常にしつかりした方でした。そして帰国された五人の

# 激論!



方々を日本に引きとめるということになりました。これは全く正しい選択ですね。公式論から言ったって、拉致した人間を帰すんですから、それを期限つきでと、そんなものはあり得ませんよ。

向こうは、拉致した人間五人だけをそれも十日だけ帰して、向こうで結構いい待遇をして、北朝鮮の体面を汚さない人間だけを帰して、ボロが出る前に引き取ろう。それ以外のこととは全部交渉の対象とする、今になって思うとそう考えていたのでしょうね。それを断ち切ったのは非常にしつかりした外交だと思います。これが私の観察ですが、実態がどうだったか、それに至る経緯を安倍さんから伺いたいと思います。

**安倍** 私は親父が外務大臣のときに外務大臣秘書官を務めさせて頂きまして、そのときに岡崎さんと知り

り合えたことが一番の財産になったのではないかと思っております。そして忙しい時間を割いて頂き、小泉総理へも色々とお話をして頂きました。

それが今、種々の批判はあるのですが、小泉総理が例えば「集団的自衛権についても議論をしてみるべきではないか」という記者会見にも繋がっているわけですし、いわゆる安全保障の問題について「常識で考えるべきではないか」という小泉総理の答弁にも繋がっているというふうに思っております。

確かに今、世論の強い支持を頂いておりますが、五人を帰すか帰さないかという決定をするにあたって、マスコミは「世論に押し流されてそういう決断をした」と書いてありますが、それは全く嘘です。私どもは十月二十四日にこの五人を帰さないという決断を下したのですが、二十三日ぐらいからすでに色々和相談をしておりました。その段階では、マスコミも世の中も、二週間で帰る一時帰国と考えていたのではないですよ。

実は、十月二十三日の段階で、五人の方々全員が日本に残って子どもたちを待つという意思の表明を私どもにしておりました。要は、この方々の意思を外に出すかどうかという議論をしたわけですが、中山参与も断固とした決意でもって「北朝

鮮のような国に相對峙するのに、個人に責任を帰すべきではない。本人の意思がどうこうということではなくて、国が責任をもつてこの人たちを帰さない。そして自由に意思を表明出来る環境をつくることにしましょう」と言ったわけです。私も、当然そういう考えに立つべきであって、それが国の責任であり、仕事であるという判断をしました。しかしながらそういう判断をすれば、私どもは、これはそう簡単には思い通りに解決はしないだろうということは百も承知でございました。もとより長期戦になるのは覚悟の上ですが、元々我々は交渉の場に於いて、北朝鮮より強い立場にいますので、粘り強く進めてゆきたいと思っております。



す。  
では、北朝鮮は今後どうなっていくのか、岡崎さんから冷徹な分析をお伺いしたいと思います。

**岡崎** 私の今後の情勢判断を申し上げます。私は、今後も世論がこのまましつかりして、安倍さんを中心とするしつかりした北朝鮮外交を進めてくれるなら、それが一番いいと思っております。

勿論、世論が中途半端な解決というものは許しません。今の状況ならば、拉致事件の全容がわかつて、それを認めて謝罪して、責任者を処分して補償しないと日本の世論は納得しないですね。全部説明して治安関係者を処分するとなると、これは北朝鮮の体制にかかわってくる話です。ですから、拉致事件というのがものすごく難しく掘まってきたことも事実です。

もう一つの見通しは、核の問題は大きいのですが、それ自体は大したことではないと思います。核の問題は体制自身には関係がありません。ただ、そこから先のことを考えますと、イラクでアメリカが勝ちますと、これは核だけではないかもしれない。通常兵力の問題もアメリカは持ち出すかもしれない。まして、アメリカが人権問題を正面から持ってきたら、逃げ場がなくなる。あるいは経済封鎖ということもあるかもしれない。これは全部イラク戦争



## 日本の外交



が終わつてからの話ですが、ますます難しくなる可能性があります。

あとは、どうやって解決するかですが、食糧五十万トンというのを拉致事件と結びつけるということも考えられます。そして拉致事件の完全解決なら、そのくらいやつてもいいだろう。そういう逃げ口をついておいたらどうかという考え方もあります。

**安倍** 今、北朝鮮との交渉が中断していますが、経済援助については、様々な懸念が解決して正常化しなければ援助はしないということになると思つています。北朝鮮は百万人の軍隊を維持しています。普通、農作物が足りなくて飢え死にしそうなら、軍隊の半分の五十万人は農村に行つて畑を耕すんですね。百万人の軍隊を維持したまま、農村の構造改革のために金を出せと言われても、我々はお出しわけにはいきません。援助する段階では、そういうことにも触れる必要があると考えて

おります。

あと、「暴発する、暴発する」ということで我々は何となく怯えてきたわけですが、そもそも、金正日が実際に暴発する可能性は非常に低いと思ひます。暴発したら終わりと彼は知つている。我々責任ある者が、怯えを見せれば北の思うつぼです。

**岡崎** お話を聞いていて、私はほんとに安心しています。通常兵力の削減、ノドンの削減、そこまでしっかりとしなければ国交正常化すべきでない、援助もやるべきでない、これは正論です。これで日本の外交はしっかりすると思ひます。私としてはそうなることを望んでおります。

それと、日本が強硬な態度をとっていると北朝鮮がいつ暴発するかわからないという議論は、かなりいいかげんな議論です。むしろ、二発でも撃ち込んだら、それが北朝鮮の終わりですね。それはよく知つていると思ひます。

**安倍** きょうは貴重なお話をありがとうございました。(拍手)

**安倍** 国会も十二月十三日に閉幕の予定でございます。この十二月、経済の状況が大変厳しさを増しています。小泉総理も十分それを念頭に置いておりまして、いよいよ補正予算の中身、玉をどういうものをやるか、いま詰めているところです。



いわゆるセイフティネット用に二兆五千億円、また、いわゆる公共事業に二兆五千億円の予算枠があります。たつた三兆円と言われていますが、中身は構造改革に資する、あるいは景気回復に資するものにしていくことによって、これをもっと大きなものにしていきたいと思つております。例えばセイフティネットにしても、ハローワークとかシルバー人材センターだけに頼らないで、もっと民間を使つていくことによって、新たな雇用が生まれるという考えでやっていきたいと思つています。

さらに、年末に向かつて税制の論議が出てまいります。これは私個人としては、最低二兆円は超える減税を行わなければいけない。投資、あるいは研究開発等々の減税は思ひ切つてやらなければいけないと思つております。

本日は年末の大変お忙しい時期にお集まりを頂きまして、本当にありがとうございます。(拍手)



FRONTIER 10

巻頭特集

対談!



# 信念を貫く姿勢は変えません。

日朝会談——微笑ひとつ見せなかった首相と副長官



厳しい面持ちで金正日総書記と対面



9月17日の首脳会談の結果、10月15日、5人の拉致被害者は24年ぶりに日本の土を踏むことができました。そして10月24日、私たちは日本政府として彼らを北朝鮮には戻さないと決定しました。実はその段階で5人は「日本に残って家族を待つ」と心を決め、私たちに伝えてきていました。5人はできれば帰ってもらったほうがよいとの意見がありました。が、まず、国家的犯



拉致被害者5人を乗せたチャーター便を待つ



訪朝後、家族の方々に説明をする



日朝会談を終え、厳しい表情で平壤を去る



平壤宣言に立ちあう



罪行で日本から拉致された人々を、誘拐した国に帰すこととはおかしいのではないかと考えました。そしてなにより5人は、自分たちをさらった国には戻らないと言っており、自由が守られるべき日本で、帰りたくない人を戻すことはできません。

5人を戻さないと決めたうえで、どう発表するかが問題でした。国家を相手とし、しかも北朝鮮、個人にすべてを背負わせて、彼らの意思で戻らないとするのがよいのか、国の責任は何か。答えはあきらかでした。

「本人の意思は問わず、日本国として5人は日本にとどめる。被害者が自由な意思を表明できる環境を作るのは、国の責任である」と表明しました。「本人の意思はどうなんだ」「子供と引き離すのはおかしい」、こうした批判は私たちが引き受けなければい、そう考えました。拉致を行った国から被害者を守るの、彼らが生まれた国、日本です。そのことをはっきりさせたかったのです。

1・2週間という日程は、5人の希望として北朝鮮が言ってきたもので、5人が残りたいと言っている以上、その前提が完全に変わりました。そもそも13歳の少女を学校の帰りにさらつておいて、約束違反などという資格はありません。被害者、被害国の意思を誠実に尊重すべきです。

家族を取り戻すために、8人の安否を確認するために大切なことは、声をひとつにすることです。「家族を、子供たちをかえせ」と。



蓮池さんご夫妻を訪問する



佐渡へ  
曾我ひとみさんを訪問



中山参与、齋木参事官とともに記者会見に臨む



# 充実・多忙の一年!

ASEAN  
(東南アジア諸国連合)  
出席のため  
シンガポールへ  
H14.1.9~15



タイ タクシン首相と



フィリピン アロヨ大統領



マレーシア マハティール大統領

韓国訪問  
H14.3.21~23



金大中大統領と

カナナキス  
サミット出席、  
カナダへ  
H14.6.25~28



ブッシュ大統領と打合せ



ライス大統領補佐官と握手



プーチン大統領と



ドイツ シュレーダー首相とカナナキスサミットから日本へ向かう政府専用機内にて





首相会見に立ちあう

## 小泉内閣 官房副長官

# “外交の安倍”、

ヨハネスブルグ  
サミット出席、  
南アフリカ共和国へ  
H14.10.25~29



アナン国連事務総長と握手



APEC  
(アジア太平洋経済協力会議)  
出席のため  
メキシコへ  
H14.10.25~29



ロスカボス(メキシコ)にて  
会見に臨む首相とともに



カシヤノフ ロシア首相と



メガワティー インドネシア首相  
との会談に臨む



フォックス メキシコ大統領  
との会談に臨む



江沢民 元総書記  
との会談に臨む



# の要として



衆議院予算委員会での答弁



参議院外交防衛委員会での答弁  
(左は川口外相)



**小泉改造内閣**



災害時にも瞬時にオペレート、  
機能充実の新官邸



総理記者会見には必ず同席

**充実・多忙の日々!**



小泉内閣  
官房副長官

# この国のため、小泉内閣



副大臣会議で司会をする

拉致問題専門幹事会の  
議長を務める



自民党役員会にて



## ひたすら誠実に、

# 優しいまなざし



ホームページで人気度1位の写真!  
(政府専用機内にて)



サンデープロジェクトに石原行革担当大臣とともに出演



報道2001に出演



中学生に新官邸を説明する  
——未来の代議士!?!の質問に答える——



平成14年 大相撲夏場所、  
優勝力士武蔵丸に賜杯を  
手渡す

# 充実・多忙な日々!



小泉内閣  
官房副長官

# その実力が生む熱い、



山口県自民党青年部の意見に耳を傾ける



日本青年会議所の松本会頭と教育問題を熱く語る

地元の要望もしっかりと聞く



福田官房長官へ松林市長（長門市）と調査捕鯨を強く訴える

## 注目度No.1の



様々な行事に、爽やか笑顔で積極参加。



婦人バレーボール大会  
H14.2.24/8.2



安岡ふるさと祭  
H14.8.2



海峡花火大会  
H14.8.13



農業祭  
H14.11.16







西山ふれあいフェスティバル  
H14.11.17



さかな祭  
H14.11.23





歴史の街、新しい街。いつも下関を見ていたい。



カモンワーク



海響館

山田好章さんと薄暮の海峡を見つめながら語り合う



赤間神宮へ参拝



リトル釜山フェスタ  
H14.11.23





会合へ、そして集会へ。語り合える、わかり合える。



秋本グループの皆さんと



楯田グループの皆さんと



六連島の皆さんと



TKCの皆さんと



晋友医会の  
皆さんと



晋緑会の皆さんと、官房副長官室にて



ワイヴスの会へ参加した皆さんと



後田、石神後援会の皆さんと



川中晋友会の皆さんと



安岡後援会にて  
熱唱





元気いっぱい!  
長門・大津の皆さんと







りぶるの集い



女性部拡大代表者会議



常任幹部会



下関支部政経セミナー



晋成倶楽部



看護連盟  
ブロック研修会



同志会幹部会



信田グループの会合





ちびっ子たちといっしょに!



この輝く瞳は国や故郷の宝物。

下関事務所にて、後援会の皆さまのお子様・お孫様の絵や写真を展示中

Happy Birthday!

H14.9.21 代議士48回目のバースデー



代議士の誕生日に  
事務所スタッフ大集合



テレビ中継開始直前

官邸見学に訪れた  
地元の皆さん



新体制になりました。どうぞ宜しくお願いします。





昨年、主人はベストドレッサー賞なるものをいただいた。

授賞式には残念ながら出席できなかったが、コメントの中で「妻がいつもチェックしてくれるので実質的には妻がとったようなものです。」というようなことを言ってくれた。これを聞いて、勿論嬉しかったが、実際のところは、ほとんど主人が自分で選んでいる。買い物好きで、先日も休みの日に時間があつたので、ひとりでデパートに出かけてネクタイやズボンを買ってきた。しかし、最近は、たくさんの方に顔を覚えていただいたため、買い物をするには少し不自由を感じるようになったらしい。

超多忙な毎日、側で見ていても大変だろうなあと思うが、自分が必要とされ、多くの皆様に信頼していただける喜びは何より元気の源になっているようだ。今年も大変な一年になりそうだが、おしゃれに元気に頑張ってほしいと心から願っている。———（昭恵）



愛犬ロイとくつろぎのひととき  
(お疲れさまです)



甥御さんとテレビゲームに熱中  
一遊びも仕事も全力投球—



薪を拾って割り、  
そして火を起こす…  
先は長い！



心を鎮めて書写に打ち込む



巣箱を取り付けバードウォッチング中(河口湖口)



結局は体力が勝負、筋トレも欠かせません



あべ晋三  
地域社会に貢献



## 油谷町の美しい丘陵に 新エネルギー事業の 大型風力発電

日本有数の美しい棚田を持つ油谷町の津黄丘陵と妙見山展望公園隣接地に、新エネルギー事業者支援対策費補助金による大型風力発電の夢がようやく実現することになりました。

これは平成9年4月に成立した「新エネルギー利用の促進に関する特別措置法」をもとに、油谷町が「地球にやさしく、エネルギー賦存量も大きく、利用効率の高い風力発電」の事業化を、安倍晋三代議士の尽力を頂きながら進めてきた大計画です。



一つは千畳ヶ原公園につづく丘陵に建設する油谷風力発電(株)で、当初は1500kWの定格出力に始まり、もう一つは楊貴妃の里ウィンドパーク事業としてのゆやウインド・パワー(株)で、4500kWの定格出力規模です。この二つを合わせれば年間で一般家庭約4400世帯分の発電能力を有し、中国地方では初めての大型発電事業となります。これらにより発生する電力は中国電力に売る計画ですが、目指すところのエネルギー削減は原油換算ドラム缶約19000本分で、しかも二酸化炭素排出量も大きく削減されます。

また、日本海を臨む300m前後の丘陵地が、静かでより美しい観光地として脚光を浴びることにもなり、その完成が待たれるところです。

ちょっと一言!

## リニューアルしました!

この度、メールマガジンの編集長でもある代議士のホームページが大幅にリニューアルされました。

従来のサイトはそのまま保存し、2種類のホームページを閲覧することが出来ます。特に新たに作られたサイトは頻繁に更新され、タイムリーな話題も豊富で、新着の写真

も多く情報満載です。

加えてアーカイブ関係(記録保管)も整い、またサイト内検索も可能で、大変わかりやすく、知りたい情報が即get出来る、とても便利なサイトです。ぜひ一度アクセスを……必ずBookmarkをしとなります!

<http://www.s-abe.or.jp>